

～DEQX調整セミナーの開催に当たって～ オーディオ装置は音楽を部屋に解き放つための道具

その装置にDEQXが必要となる根源的な理由をまとめた[文章がこちら](#)にあります。
これを近頃のAIで要約すると、

■ オーディオの本質と再生装置の役割

- オーディオは録音された音源を再生する装置であり、**優れた装置は音楽の本質（感動）を忠実に再現する。**
- このため、装置には高い透明性が求められ、**特にスピーカーと再生空間（室内）の特性の改善は重要なポイントとなる。**
- 音楽を解き放つための装置、**は純粋に科学技術的なアプローチが必要である。**
- **感動は音源に内在し**装置には宿らない。従って故意に芸術的に聴かせようとする装置は不要である。

と、なりました。

この考え方の前提は「感動は音源に内在する」ということですが、**その音源には単なる記録レベルのものから、高度な芸術作品まで存在するという事実**です。

私にとっての良質な音源とは「曲と演奏と録音」の三拍子が揃ったものですが、それの重要度については人によって異なると思います。

オーディオファンの私は「録音の質」を最初に評価してしまう傾向があります。

ピュアな音楽ファンの方は最初に「演奏の質」を重視されると思います。

いずれにしても感動するのは再生された音楽であり、**オーディオ装置はその音楽（プログラムソース）が少しのゆがみもなく再生できることが根源的な役割となります。**

ここで注意したいのは電気音響的なクセのある音源を使って調整すると、音源とは逆の特性（クセ）を持つ装置となり、他の音楽がクセのある音で再生されてしまうことです。

このため調整にはクセのない音源を利用することが大切ですが、それ以前に**電気音響的な物理特性を可能な限りクセのない状態に仕上げておく**ことが基本中の基本となります。

DEQX は実際の音響的な状態をグラフで見ることが出来ます。これによって、昨日と今日、前回と今回、または 10 年前と今を正確に比べることが可能です。

この比較するという作業は、脳の記憶に頼る人間には極めて困難であり、瞬時に消滅してしまう「音」については絶望的とも言える事柄なのです。

今回のセミナーで挑戦する DEQX は測定器であり、その結果を基に実際にスピーカーや部屋のクセを取り除く事が出来る極めて優れたオーディオ再生機器です。

DEQX を使いこなして透明度の高い装置を手に入れ、演奏者の魂に迫る豊かな音楽ライフをご一緒に堪能しようではありませんか。